ハンゴンソウ

Senecio cannabifolius

キク科

ハンゴンソウの花

名前の由来
反魂とは死人の魂を呼び戻すことで、古くはハンゴンソウの薬効からついたと言われる。また一説では深く切れ込んだ葉を、魂を手招きする掌にみたてたという。漢字名：反魂草

形態的特徴

大型で1～2mになり直立し、茎は太くしばしば赤味を帯びる。葉は羽状に深く裂け、2～3対の細長い小片に分かれる。葉のふちには細かいギザギザの鋸歯がある。花は巨大な全体に対しては小さく、黄色で径２cmほどで、中心部に筒状花という花びらのない小さな花が集まり、その周囲に5～7枚の花びら状の舌状花が取り囲む。頭花は上部で枝分かれした茎の頂に一つずつつき、多くの花が密集して咲く（大型の散房花序をつくる）。　**類似種**：特にない。

生育環境・分布

低地～山地の林内や林縁、草原に生育する。
分布：国外分布は、樺太・カムチャツカ・アリューシャン・朝鮮・中国・シベリア東部。
国内分布は、本州中部以北から北海道。
北海道内分布は、全道。
十勝地方では、低地～山地の林内や林縁、草原で見られ、群生することもある。

生活史

開花時期：8～9月。**開花までの年数**：不明。**寿命**：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■５月ごろ、20～30cmに伸びた若芽が山菜として食べられる。苦味とアクが強いので木灰を全体にまぶしてよくゆで、一晩ほど水にさらしてアクをぬく。皮をむいてから、酢の物、あえもの、油炒め、おひたしなどにする。てんぷらにするときは、香りと苦味を適当に和らぐので、生のまま硬めのころもであげる。
■足寄（アイヌ文化では釧路地方の文化圏）などのアイヌ語では「ペカンペクトゥ」という。

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

ハンゴンソウ。深く裂けた独特の葉。右は若芽

生活サイクル

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
開　花　期					―	―						
結　実　期						―	―					

参考文献
「北海道植物図譜」滝田謙譲　自費出版　2001
「日本の野生植物　草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎　他　平凡社　1981
「図説　花と樹の大事典」木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗　柏書房　1996
「名前といわれ　野の草花図鑑5」杉村昇　偕成社　1992
「新版　北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹　亜璃西社　2002
「知里真志保著作集 別巻Ⅰ　分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社　1976